

中部様式1

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

八百津町地域公共交通活性化協議会

平成30年3月23日設置

【地域特性】

- 人口 11,039人 山間部の高齢化率46.31%
過疎化、人口減少、少子高齢化が進行
- 総面積 128.79km² 山林が80%を占める
標高差500m以上の平野部と山間部からなる
- 杉原千畝氏を顕彰した記念館、丸山ダム

【公共交通網形成計画策定の背景】

町民の移動手段は7割以上が自家用車
過疎化、人口減少、少子高齢化が進行しており
移動制約者に対する公共交通施策は急務

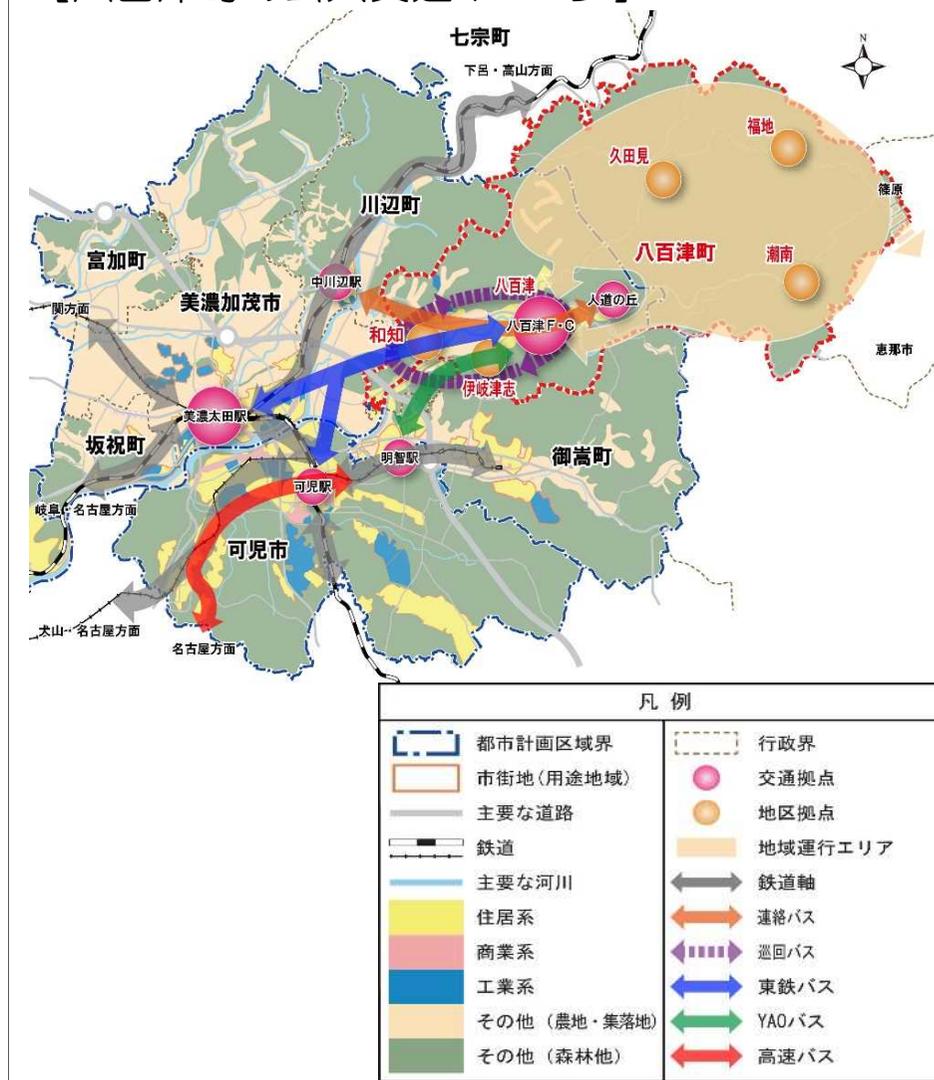
【公共交通の目指す姿】

将来に渡り、安心して住み続けられるまちづくり
のための、地域で支え合う公共交通の構築

地域特性に応じたきめ細やかで利用し易い
移動環境を形成

- ◆ 山間部の足の確保(地域運行も視野に)
高齢者の免許返納後の足の確保
- ◆ 学生の足の確保
- ◆ 町内の需要の多い目的地を巡回するバス
- ◆ 鉄道、近隣市町の公共交通接続を考慮
町外への移動・広域性の確保
- ◆ 観光来訪者の利便性を考慮
- ◆ 東鉄バス八百津線の維持・存続

【八百津町の公共交通イメージ】

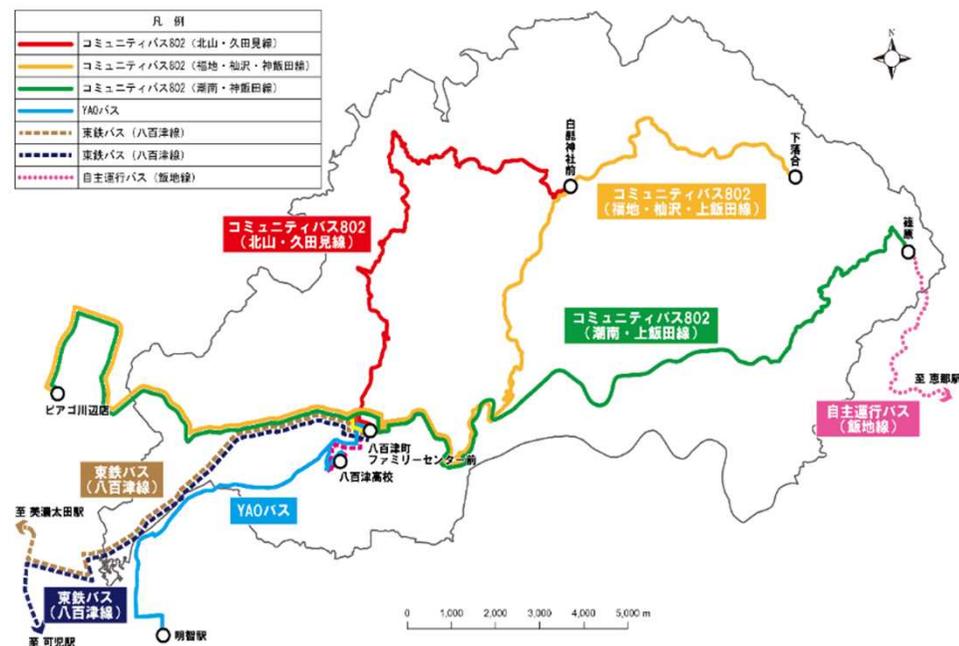


【公共交通網形成計画の策定及び期間】

素案策定:2018年度 本計画策定:2019年度
計画期間:2019年度～2023年度 予定

➤ 現状の把握、分析、整理

- 人口減少・高齢化が進展し、今後も傾向が続くことが見込まれる。**減少割合は、町の西部で少なく、東部が多い。**
- **交通流動**では、流入・流出ともに**可児市が最大**である。
- **学校や福祉施設**などは町の**中心に多く立地**している。
- 観光施設は南西部に集中し、特に杉原千畝記念館の入館者が多い(2017年約34千人)。



【町内の交通】

- 鉄道（JR、名鉄）＝バスで明智、可児・新可児、美濃太田、中川辺に接続
- 東鉄バス八百津線（可児駅系統・美濃太田系統・八百津高校系統）
＝利用者数：約17千人／年、近年減少傾向
- コミュニティバス802（東鉄へ委託）＝利用者数：約1万人／年、近年微増傾向
- YAOバス（名鉄八百津線代替バス、東鉄へ委託）
＝利用者数：約8万人／年、近年減少傾向
- 自主運行バス（飯地線）（東鉄へ委託）＝利用者数：若干名、町内利用者は皆無
- タクシー＝町内に2台のみ。観光シャトルタクシーは約1千人／年
- その他 福祉有償運送（NPOやおつ）、小中学校スクールバス

➤ 八百津町地域公共交通網形成計画策定に向けた各種調査の実施

時期	内容	実施の目的	備考
H30. 6～7	町民アンケート調査 (16歳以上の町民2,000人)	利用状況、公共交通に対する意向を把握	利用促進PRチラシを同封 回収率42%
H30.6	公共交通利用実態調査 OD調査 (全路線バス利用者)	バス利用の実態を把握	対象:コミバス802、YA0バス、東鉄バス八百津線、恵那市コミバス飯地線
H30.6	公共交通利用者アンケート調査 (全路線バス利用者)	利用者の属性、意識、ニーズ等を把握	対象は上と同じ 調査員乗り込みによる
H30.7	八百津高校生アンケート調査 (八百津高校生)	通学実態、利用意向の把握	教員経由で配布・回収 344通
H30. 7～11	関係機関ヒアリング調査 (交通事業者、社会福祉協議会、医療機関、八百津高校、NPOやおつ、役場教育課、健康福祉課)	利用実態や課題、ニーズの把握	
H30. 7～8	観光来訪者アンケート調査 (杉原千畝記念館、本町商店街来訪者)	観光来訪者の状況及び公共交通利用の可能性を把握	手渡し及び回収箱設置 杉原記念館:753通 本町商店街:36通
H30.9	地域懇談会 (町内6地区)	地域毎の公共交通の課題とニーズの把握	別紙「アピールポイント」のとおり

➤ 八百津町地域公共交通会議(協議会)の運営

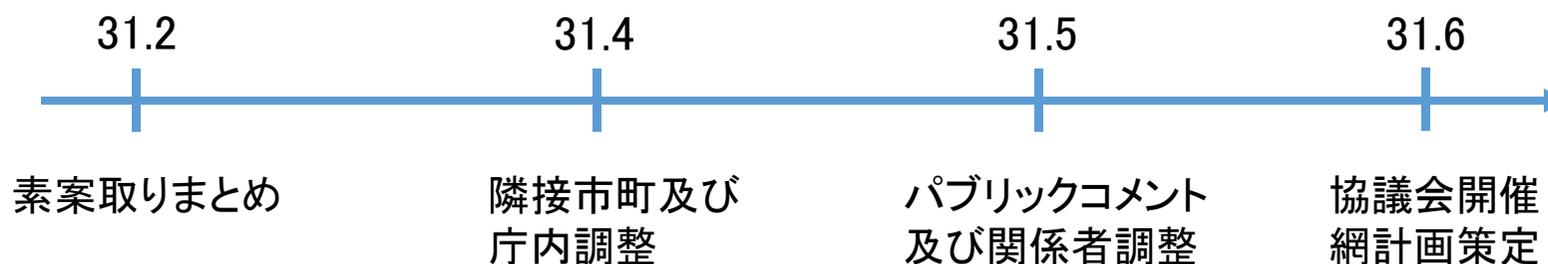
- 平成30年3月に八百津町地域公共交通会議を設置し、予定どおり開催

回	時期	内容
1	30.6	調査の方法・内容、スケジュール
2	30.8	現状把握・移動実態等の調査結果
3	30.11	課題の分析・整理、方向性の検討、地域公共交通網形成計画の骨子の検討
4	31.2 (予定)	地域公共交通網形成計画の素案取りまとめ 31年度の具体的な取組みについて

※1月末現在

今年度実施したアンケート調査、ヒアリング調査等の各種調査や地域懇談会において、地域住民、公共交通利用者、各関係機関の移動交通手段に対する課題やニーズを把握できている。地域毎で交通実態・ニーズが異なる状況を踏まえた上で、課題解決に向けた具体的な取組みについて現在検討中。

網形成計画策定までのスケジュール(予定)



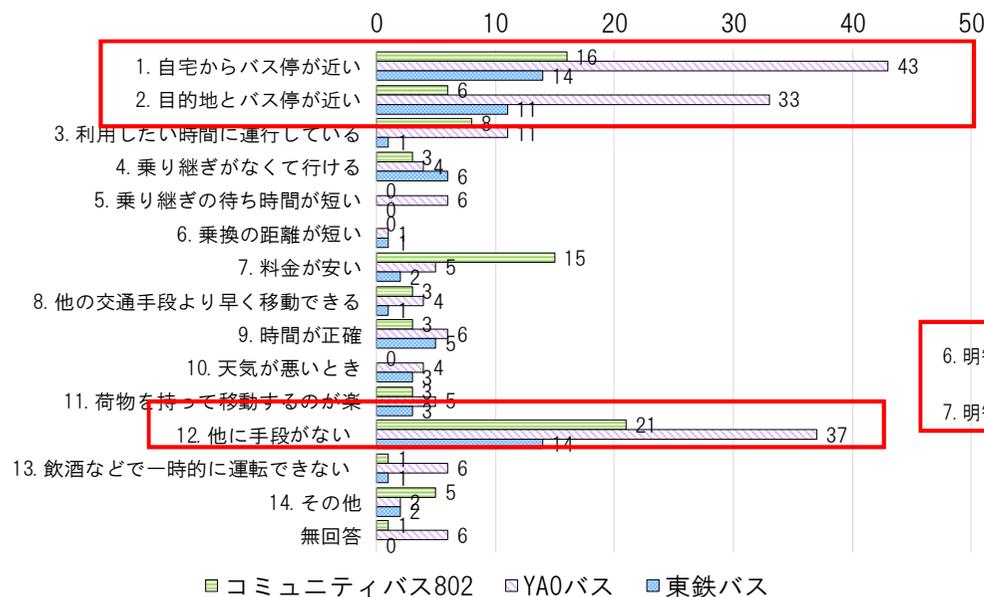
利用者アンケートでは、バスを使う理由は、「自宅や目的地と近い」「他に手段がない」が上位。また、鉄道との乗り継ぎは「明智駅」が多い。

➡ 公共交通を確保・維持すべき路線や目的が抽出できた。

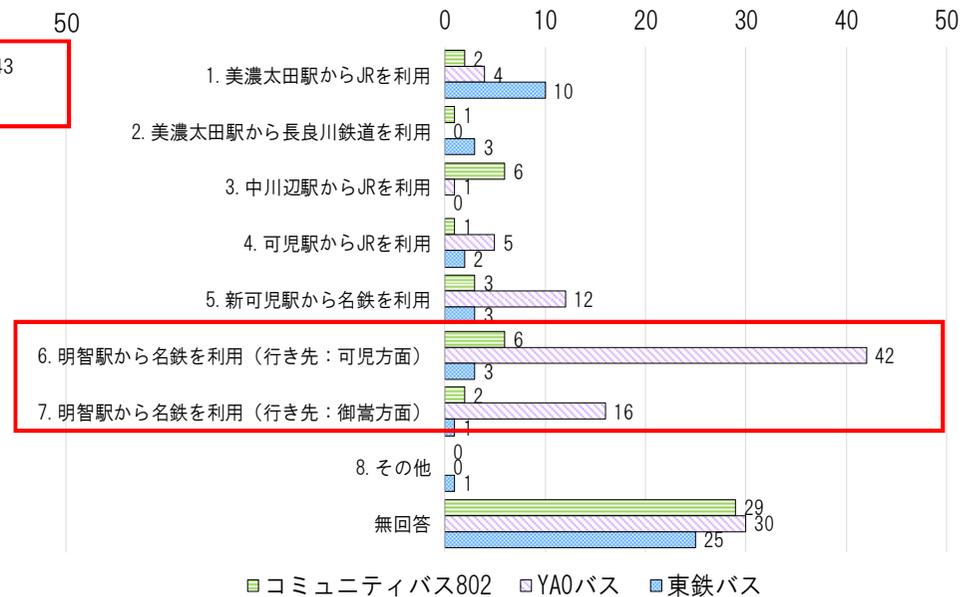
関連データ(町民アンケートより)

- バスを普段利用するか
利用する=15.3%、利用しない=75.9%、無回答= 8.8%
- バスを選択しない理由(上位3つ)
利用したい時間に合わない=25.8%、本数が少ない=25.2%、自宅からバス停が遠い=20.5%
- 交通施策として必要なもの(上位3つ)
他市町(鉄道駅)に繋がるバスの維持・確保=35.3%、他市町を結ぶ幹線道路の整備=29.3%、町内を結ぶバスの維持・確保=25.7%

バスを利用する理由【合計】



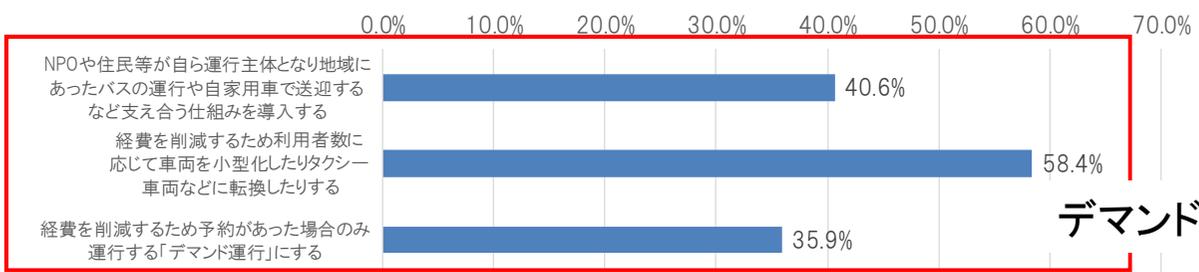
乗り継ぎ駅【合計】



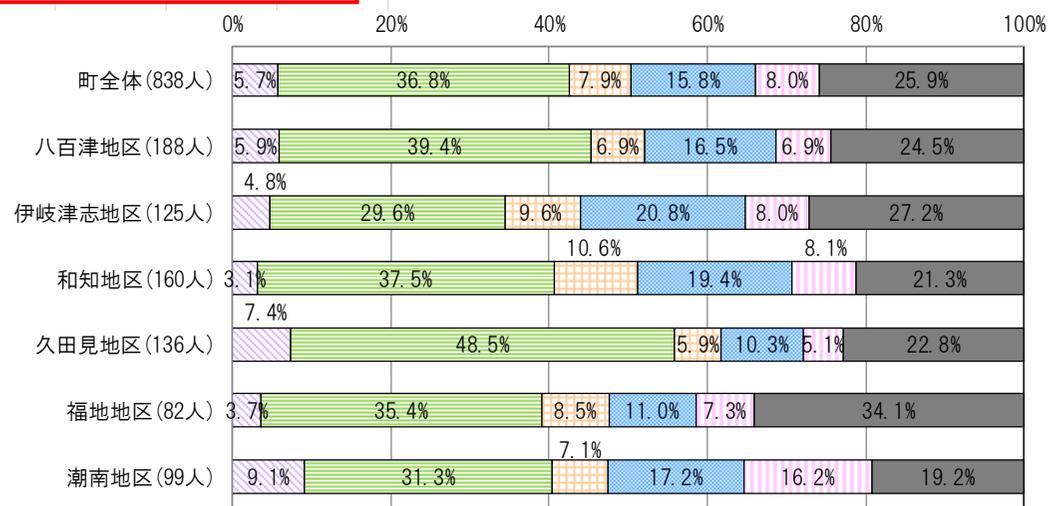
町民アンケートから、地域主体や経費削減に関する対策が必要。
一部の地域懇談会においては、デマンド交通の導入についての意見が多く見られた。

➡ デマンド交通の導入検討など効率性の向上が必要であることが確認できた。

地域公共交通の確保・維持に向けた対策



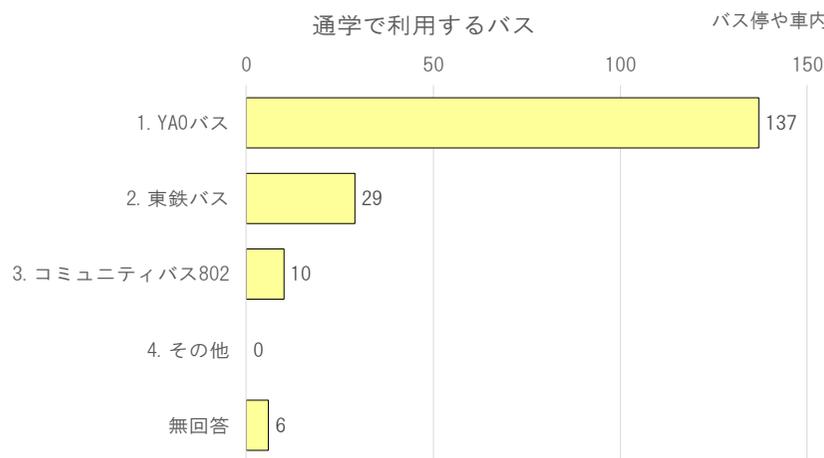
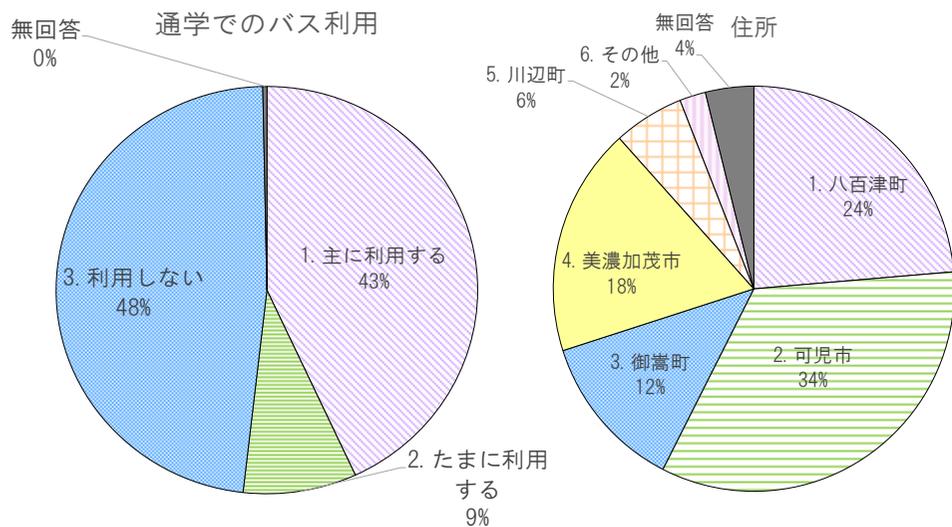
デマンド交通が導入された場合の意向



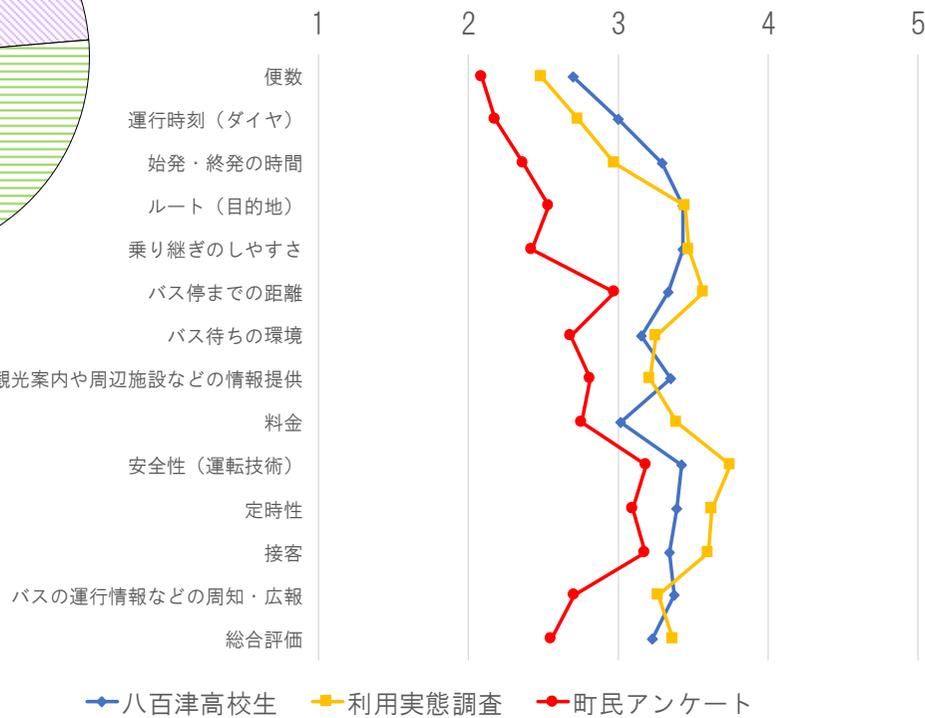
- 積極的に利用したい
- 便数や運行時間帯などの運行状況によっては利用したい
- あまり利用したいとは思わない
- 利用するつもりはない
- その他
- 無回答

八百津高校生へのアンケートから、YAOバスの維持について重要性を確認。
満足度は比較的高く、近隣市町からの通学が多い。

➡ 引き続き近隣市町との連携が必要であることが確認できた。



バスの現在の満足度



【現状と課題】

公共交通を重視した暮らし易いまちづくり
交流・定住人口の増加を図る
福祉・教育・観光と一体となった取り組み

バス採算悪く利用率が低い
経常的な赤字(コバス802収支率 4%)

バスを利用しないのは？
住民のニーズに合っていない
行きたいところに行けない バス停が遠い
土日に行っていない etc・・・
バスで汲み切れないニーズを車で賄っている

免許返納後の生活は？
将来に不安を感じている人、一方で、身近
で重要な事として認知していない人も
町民が主体的に関わり、ニーズに合った運
行形態への転換について協働での取り組
みが必要

交通事業者 運転手の高齢化、確保が困難
な状況

【改善に向けた対応方針】

誰もが「使える」地域公共交通網をつくる

町民等の移動ニーズを踏まえた日常的な移動・愉し
みの活動を支える交通手段の確保
町外への移動・交流の活性化
公共交通間の接続を考慮した利用しやすいダイヤ・ルート
福祉と連携した外出支援
観光来訪者の利便性も考慮

将来に渡って「維持できる」地域公共交通網をつくる

効果的・効率的な移動支援体系の構築
使える事を周知し、全ての年代に公共交通を身近に
感じてもらう
運転手の確保、安心安全な運行

みんなで「支える」地域公共交通網の仕組みをつくる

地域自らが公共交通を考え、支え、関わっていくとい
う意識の醸成
町・交通事業者協働による公共交通利用促進
関係機関、地域住民との継続的な連携

【2019年度取り組みのスケジュール】 本計画を策定。住民説明会を開催し、地域住民と一体となって取り
組んで行く。地域住民・交通事業者・関係機関と協議・連携し、具体的な施策の推進、再編を図っていく。

中部様式2

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

八百津町地域公共交通活性化協議会

平成30年3月23日設置

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
無し		

【きめ細かく住民と意見交換】

- 町内6地区において地域懇談会を開催

町内6地区において、地域懇談会を開催。町全体と、各地域毎の公共交通を取り巻く問題や現状について共有をした後、ワークショップ形式で移動交通手段に関する意見交換会を行った。

開催にあたり、町の広報で広く参加を呼びかけ、地域住民、自治会長、民生児童委員、老人クラブ、小中学校関係者など、様々な立場の方の参加を得て、地域住民の交通実態や、アンケートでは把握しきれない、より細かなニーズをとらえる事が出来た。

- 各地区サロンへの参加

地域懇談会会場までの足の無い高齢者の方の意見を伺うため、各地区サロンの場に足を運び、幅広い年齢層の意見を聴取した。



- ✓ 地域の公共交通を一緒に考えて行く良い機会となり、地域毎における考えの相違や、熱意を直接感じ取れた。
- ✓ 特に東部(山間部)地域では、町民主導で公共交通を創り上げていくといった意見が出ており、地域住民の積極的な参加を得て、協力体制を確立していく。
- ✓ 策定中の網形成計画においても位置づけ、地域での参加を継続することで地域に根差した運行を検討していく予定である。

【地域懇談会の様子】



「地域でできること」を考え
ていただいた

- 声掛け等で利用者を増やす
- 試乗会、PR活動
- 地元商店等の協賛
- イベントでの利用
- 地域運行や地域での運転手確保
- 地域であり方を検討
(特に、東部で積極的)